

# 介護従事者における 新型コロナウイルス 感染対策

障がい者・実践編・訪問版



## はじめに

---

この教材は、動画「介護従事者における新型コロナウイルス感染対策（実践編・訪問版）」と併せて活用していただくことを目的に作成しました。介護に携わる皆さんが新型コロナウイルスの感染対策を正しく理解し、感染予防に努めてください。なお、この動画と教材は、令和3年3月現在の国の方針等に基づいて作成していますので、ご注意ください。

---

## 目次

---

<b>1</b>	通勤	1
<b>2</b>	出勤後	2
<b>3</b>	職員間の注意点	3
<b>4</b>	利用者への訪問	4
<b>5</b>	介助にあたり	6
<b>6</b>	整容	7
<b>7</b>	食事介助	8
<b>8</b>	口腔ケア	9
<b>9</b>	排泄ケア	10
<b>10</b>	入浴	11
<b>11</b>	室内環境	11

# 1. 通勤

## ① 体調チェック

出勤前は必ず、検温しましょう。発熱や風邪の症状、息苦しさ、倦怠感、味覚や嗅覚の異常などがある場合は、職場に連絡し、出勤を控えましょう。また、家族に感染症状がある場合、または疑われる場合は管理者に報告し、対応を相談しましょう。

### 確認事項

発熱 風邪の症状 息苦しさ 倦怠感 味覚や嗅覚の異常

## ② 服装

通勤時と勤務時の服装は必ず分けます。外部からウイルスを持ち込まないために徹底しましょう。勤務時の服装は定期的に交換し、清潔にしましょう。

### 通勤時



### 勤務時



## ③ 帰宅時

帰宅した時はすぐに手洗いをしましょう。うがいや洗顔も効果的です。



帰宅後すぐに手洗い、うがい、洗顔

## ④ その他の注意点

- できるだけ他人との接触を避ける
- 通勤途中は、不要な立ち寄りをしない
- 公共交通機関で通勤の場合はマスク着用



## 2. 出勤後

### ① 検温、体調チェック

職場でも、検温と体調チェックを徹底することで、安心して接することができます。



職場についたら、検温、体調チェック

### ② 手洗い、または消毒

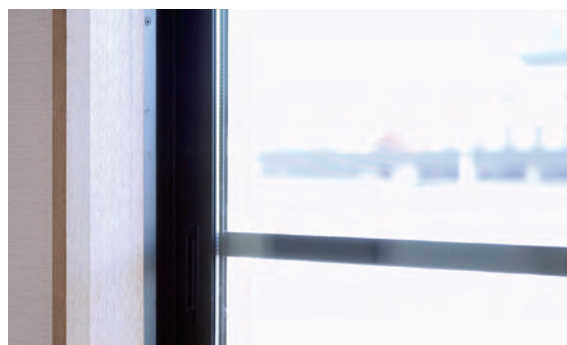
職場に着いたら、手洗いをしましょう。近くに手を洗う場所がない場合は、アルコールで消毒します。



流水でしっかり手を洗う

### ③ 職場の清掃・換気

職場は定期的に清掃・換気しましょう。



職場は定期的に清掃・換気する

# 3. 職員間の注意点

## ① ミーティング、申し送り

職場では必ずマスクを着用し、飛沫対策を取ります。



適度に距離を取って着席

## ② 情報共有のポイント

ポイントを押さえて、短時間で利用者の情報共有を図ります。感染が発生した際に必要なため、体調だけでなく、対応した職員名などを記録します。

### 情報共有のポイント

- 利用者の体調
- 対応した職員を記録  
→感染が発生した際に必要

## ③ 共有時に感染に注意すべき備品

職員間で共有する備品も注意が必要です。筆記具やパソコン、タブレット等は定期的に消毒しましょう。



## 4. 利用者への訪問

---

### ① 利用者宅到着後

利用者宅に着いたら、手指消毒し、玄関内でエプロン等を着用します。エプロンは利用者ごとに取り換えましょう。



玄関で手指消毒



エプロンの着用は玄関で行う

## 4. 利用者への訪問

### ② ケアの準備

ケアの前に手洗いをします。利用者宅で手洗いをする際は、ペーパータオルを使って手を拭きます。蛇口は手を拭いたペーパータオルを使って閉めます。ペーパータオルが準備できない場合は、自分のタオルを使用します。タオルは訪問する利用者ごとに取りかえましょう。



ケアの前に手を洗う



ペーパータオルで手をふく

### ③ 利用者の体調チェック

サービス提供の前に利用者の体調チェックをし、記録します。利用者に発熱がある際は、事業所へ連絡し、指示を仰ぎます。なお、検温を拒否される場合は、無理に検温するのはやめましょう。また、介護従事者が訪問し、滞在している間や、外出等に同行して支援を行っている間は、できる限り利用者にマスクを着用してもらいましょう。

利用者の体調チェックし、記録



発熱がある場合、事業所へ連絡



利用者対応の指示を仰ぐ

※検温を拒否される場合は、無理に検温するのはやめる

※介護従事者が支援中は、できる限り利用者はマスク着用

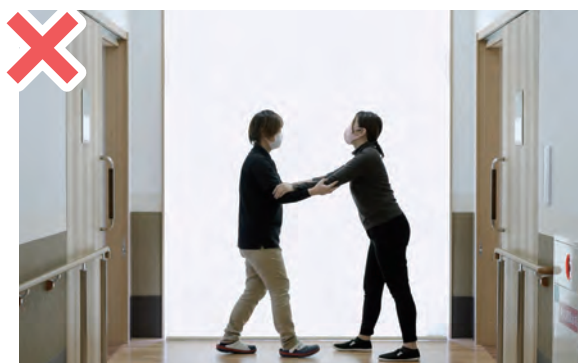
# 5. 介助にあたり

## ① 移動介助

移動介助の際は、飛沫がかからないよう正面に立つのは避け、側面から支えるようにします。



可能な限り、横から介助する



飛沫がかからないよう、正面に立つことは避ける



## 6. 整容

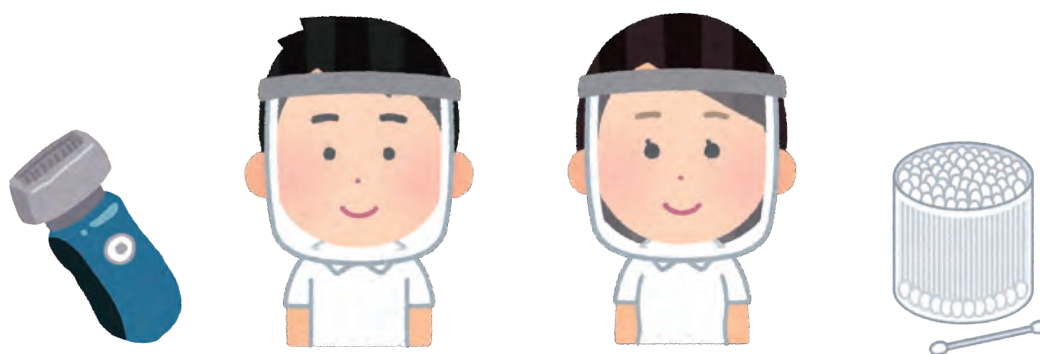
### ① 耳・鼻掃除

耳や鼻を掃除する際は、顔同士が近づき、感染リスクが高くなるため、マスクに加えフェイスシールドをしましょう。マスクによって鼻と口から、フェイスシールドによって目からのウイルス侵入を防ぎます。



### ② 髭剃り

髭剃り介助の際も、顔同士が近づき、感染リスクが高くなるため、マスクに加えフェイスシールドをしましょう。



フェイスシールドの表面は定期的にアルコール消毒しましょう

# 7. 食事介助

## ① 食事介助

食事の前に、必ず手洗いをします。食事介助は、飛沫がかかりやすいので、正面から行わないようにします。むせやすい利用者の場合は、事前にタオル等を用意し、むせた場合は利用者の口を覆いましょう。



利用者の正面を避け、横に座り介助



むせた場合は、事前に準備したタオルで口を覆う

※服薬介助時も正面から介助しない

## 8. 口腔ケア

### ① 歯みがき

口腔ケアは、感染リスクが高い介助です。必ず、手袋とマスク、フェイスシールドを着用します。介助時は、利用者の正面に立たず、ブラッシングし、飛沫が顔などに付着しないよう注意しましょう。



正面に立たず、ブラッシング

### ② 入れ歯の処理

入れ歯を洗浄する際は手袋だけでなく、マスクとフェイスシールドも着用します。洗浄中に水しぶきが飛んでくるのを避けます。

#### 入れ歯の処理のポイント

- 洗浄する際は手袋だけでなく、マスク、フェイスシールドを着用
- 洗浄中に水しぶきが飛んでくることで感染リスクが生じるので注意



# 9. 排泄ケア

## ① オムツ交換

オムツ交換の際は、手袋をしっかりとしましょう。感染者や感染の疑いがある人のオムツ等はビニール袋で密閉して他のゴミと分けて廃棄します。



## ② 排泄介助

排泄物を処理するなど排泄物に直接触れない際もマスクと手袋は着用します。

### 排泄介助の注意点

- 排泄物に直接触れない場合でも、マスクと手袋を必ず着用



# 10. 入浴

## ① 入浴介助

入浴前は利用者の体調確認をし、体調不良であれば清拭へ変更します。入浴介助者は、マスクとフェイスシールドを着用のうえ、マスクはできる限り不織布のマスクを使用します。マスクは濡れると防御効果が下がるので注意が必要です。

### 入浴介助前の体調確認のポイント

- 問題があれば、原則、清拭に変更
- 入浴介助者はマスクとフェイスシールドを着用
- できる限り不織布のマスクを使用

### 入浴介助時の注意点

- マスクは濡れやすいため、注意が必要

# 11. 室内環境

## ① 換気

閉鎖した空間では、ウイルスがエアロゾルとして空気中に残るので、定期的に換気します。夏場や冬場は室内の温度変化に注意が必要です。2方向の窓を少し開けておくなど、介護現場に適した方法を選択しましょう。



定期的に換気

### 換気の方法

- 定期的に窓を開ける
- 2方向の窓を少し開ける
- 換気扇などを使って換気する

## まとめ

- 基本は1ケア1手洗い
- 利用者宅、事業所内に「持ち込まない」ように
- 感染を「拡げない」ように
- 日ごろからの感染対策の意識づけを

## 介護従事者における新型コロナウイルス感染対策 〈障がい者・実践編・訪問版〉

---

【監修】

九州大学病院グローバル感染症センター長 下野 信行

---